

しまなみ海道の船と港

会員 福富 廉

私が初めて、しまなみ海道に行った 25 年ほど前にはまだ橋は無く、三原から今治までの直通フェリーに乗って、特に途中の鼻栗瀬戸の景色に感動したものだ。その後、しまなみ海道の道路の東側には何度か行ったものの西側には行ったことが無く、今回、初めて行ってみることにした。旅の主な行先は、船の形をした木江ふれあい郷土資料館、御手洗の古い街、来島海峡の展望、村上海賊、大山祇神社として、乗れるだけの船を利用しようとしたものだった。

1. 今治から大崎上島、大崎下島へ

大阪から今治へは、まず、オレンジフェリーの「おれんじ えひめ」を利用した。同社の関西航路が今の 2 隻に変わってからは初めての乗船で、全室個室のコンセプト等に興味を持っていたが、なかなかいい船で、食事も良く、8 時間に満たない夜便だけでは非常にもったいない気がした。

朝 6 時に船を降りた後、今治行きの無料の連絡バスは今治栈橋に 7 時 10 分に到着し、7 時 20 発の大三島・宗方港行きの「とびしま」に直ちに乗船、そして宗方港でフェリー「みしま」に乗り継いで大崎上島の木江（きのえ）港に渡った。



宗方港沖を行く今治市営せきぜん渡船「とびしま」



同左「とびしま」(左)、大三島ブルーライン「みしま」

かなり昔から木江に船の形をした博物館があるのを知っており、一度行ってみたかったのだが、どうしてそこに船の博物館があるかは行くまで何も知らなかった。そして知ったところでは、木江は昔の風待ち港／潮待ち港でとても賑わっており、何と昭和 3 年時点での帆船入港トン数が門司、下関に次ぐ全国第 3 位、全盛期には木造船の造船所も 25 軒ほどあって、中には建造が難しい 1,000 トンクラスの木造船を造っていた会社もあったそうだ（現在は鋼船の造船所が 3 軒）。

このような環境の中で造られた“木江ふれあい郷土資料館“であるが、建物自体が船の形をしていて、1F は木江の町と船の歴史とマキハダ工場の再現展示、2F が船の備品や造船に関する展示、3F が操舵体験室として船のブリッジの模型となっていて、屋外に救命艇や錨などの展示があった。ちなみに、マキハダとはヒノキ等の樹皮から作る防水材で、木造船の建造には不可欠なものとして、この島での一大産業にもなっていたとのことであった。



木江ふれあい郷土資料館



資料館 1F 右は昭和初期に活躍した「第十五相生丸」の模型



資料館 2F



資料館 3F 操舵体験室

次に、大崎下島の小長（おちょう）港に向かうためにこの島の明石港に向かった。この港にあった案内看板で知ったのが“紫雲丸記念館”の存在。島の方に聞いて、それがどうやら近くの木江小学校の中にあるということで行ってみることにしたのだが、実は行くまで、なぜそんなものがあるのか、全然思いが行かなかった。同日は日曜日だったのだが、行ってみたら休日出勤の先生がいらっしやって、行事も終わったので、ということで、案内していただけることになった。そこで、初めて、愕然とした思いになったのだが、先生の話でこの前身の木江南小学校の修学旅行生が1955年（昭和29年）5月11日の同船の衝突・沈没で、生徒22名と引率教員3名が犠牲になったことだった。私は高知県の出身者なので高知市の南海中学校の生徒の犠牲は知っていたが、そう言えば、ということで、同船に関する本で松江と愛媛、そして、瀬戸内海の



校庭の隅に設けられている“紫雲丸記念館”

島の生徒がいたことも思い出した。それと同時に、中学の同級生の1人の父親も犠牲者だったらしい、という話も思い出した。記念館（主には生徒の学習室）の建物の奥に鍵のかかった別室・祭壇があり、見せていただいたが、中には犠牲者の父親が造ったという同船の模型や色んな資料があった（私は、とても写真を撮る気にはならなかったが、ネット上にはそれもある）。造船と海運の島に生まれ育ち、未来のある子供たちが、その船に命を取られたことは、船ファンとしても、かつて船関係の職にあったものとしても、とても悲しかった。その後に法律の改正や色々な改善がなされたと思うし、本四架橋の推進へとつながったが、まさに池田事務局長らがよく言われる“血の歴史”である。ちなみに、半年後の来年 2025 年 5 月にはあの事故から 70 年目を迎える。



明石港に入港する「第五かんおん」



明石港の「第二芸予」 主に危険物車両輸送等



御手洗港に入港してきた「シースピカ」



大長港付近を進む「かがやき 2 号」
この航路も来年 2025 年 3 月末で休止



- (上) 大長港近くの“みかんメッセージ館”内に展示されている昭和 43 年建造の木造農船「大長丸」（おおちょうまる）近郊の島に働きに行き柑橘類を運ぶ船
呉市有形民俗文化財
- (左) 大崎下島と岡村島の間、中の瀬戸大橋の下を通る「第五かんおん」

2. 岡村島から今治へ

御手洗のある大崎下島と岡村島の間は広島県と愛媛県の県境である。現時点で、呉から岡村島まで“とびしま海道”として橋で結ばれているが、路線バスは県境を越えない。私は岡村島から今治に行く船に乗りたかったので大崎下島の宿から徒歩で 1 時間半ほどかけて岡村港まで行ったが、景色はいいし、折よく、昨日乗ったフェリー「第五かんおん」の通橋も撮影できてうれしかった。岡村港から、せきぜん渡船の「第二せきぜん」に乗って、小大下島、大下島を経由して今治に戻った。

今治では、来島海峡の展望台に行って、大型船の通峡が無かったのは残念だったが、船の行き交う景色を堪能した。そこから徒歩で 20 分程下ると波止浜湾の造船所街に出る。今治造船、浅川造船、桧垣造船、新来島波止浜ドックと言った造船所や建造中の船を眺めるのは楽しい。Google マップには“今治造船の船観覧名所”、等という表示もあるくらいだ。そして、湾の中央付近の乗船場から来島海峡を渡った向かいの馬島まで市営の渡船「くるしま丸」で往復クルーズした。当日は5ノット前後の潮流で、最高は9ノットくらいまでなるそうであるが、なかなかいいクルーズができて楽しかった。ちなみに、この馬島の下田水港から不定期ながらも遊覧船が出ていて、逆に波止浜湾内を一巡りして楽しむことも可能である。



岡村島・岡村港の「第二せきぜん」



来島海峡傍の糸山展望台下を通る「第二せきぜん」



今治栈橋裏の入り江に停泊する小型客船群 左端が今治港のターミナル
左から、「マリンスター5」、「ニューおおしま7」、「第一ちどり」、「ニューおおしま3」、「ニューおおしま8」



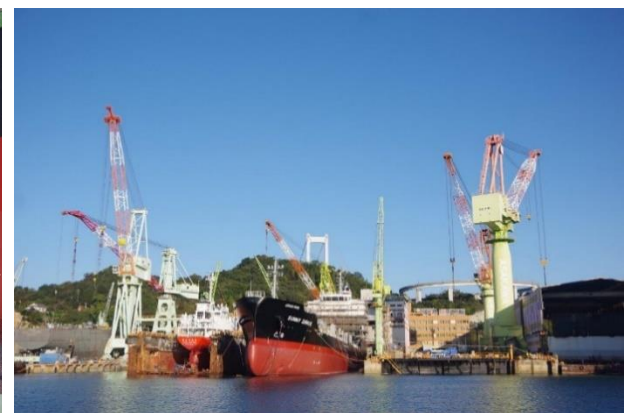
“今治造船の船観覧名所”より波止浜湾の眺め
今治造船で完成間近の BC「MADOROSU」(シンガポール)



波止浜湾中央付近



波止浜湾中央付近 真ん中は、馬島からの遊覧船「なかと」



波止浜湾北側 桧垣造船(左)と浅川造船の境目付近



今治市営 波止浜～馬島航路「くるしま丸」



来島海峡第三大橋下を行く「くるしま丸」

3. 今治から大島、伯方島経由で大三島へ

今治からは芸予汽船の高速艇「つばめ」で伯方島へ。そこから、「のしま 7」に乗って大島へ戻り、村上海賊ミュージアムへ行った。ここでは潮流体験をうたう遊覧船に乗船。当日はその時間が最強潮流の時刻ながら半月付近なので潮流は5ノット程度(最強は10ノット程度にもなるとのこと)だったが、それでも屋根だけのオープンな小型船なので十分に楽しんだ。また、潮流以外にも橋をくぐる等、色々な景色を楽しめ、いい体験だった。ちなみに、海賊がいたほどのこの能島付近、大島と伯方島の間が大阪と関門海峡を結ぶ最短航路だ。来島海峡は実は遠回りなのだが、大型船はここを通れない。

数々の国宝で有名な大山祇神社には併設された“海事博物館”がある。実は、中には、昭和天皇が研究のために利用した御採集船「葉山丸」がそのまま展示されている。建物は三角屋根で、船の展示なのでおのずと形はそうなるのだろうが、東京の「第五福竜丸」やオスロの「フロム号」等々と同じ。内部の周りには採取した貝殻などの展示が所狭しと飾られていたが、わずかばかりに「葉山丸」の来歴（元海軍艦艇）や奉納された軍艦の写真などが飾られていたが、内部は撮影禁止とされていた。

大山祇神社の参道は西側の宮浦港に延びて、港の傍に大きな鳥居も見える。かつては定期船が行き交ったであろう立派なたたずまい棧橋は、今は海の駅となっているだけで、定期船は無く、ひっそりしていた。



今治～土生（因島）航路の高速艇「つばめ」 伯方島・木浦港



能島水軍潮流体験船「能島荒神丸」



大島～鶴島～伯方島航路 シーセブン「のしま 7」



シーセブン「くれない」 伯方島・尾浦港にて



大島・宮窪港に入港してきた
「サイクルシップ ラズリ」



大山祇神社の海事博物館
左は今治造船奉納のプロペラ・モニュメント 同様なものは、丸亀、金毘羅さん、今治市役所、三原港等にある

4. 大三島、生口島、生名島から尾道へ

大三島の盛（さかり）港から忠海（ただのうみ）へは「第三おおみしま」に乗船、バスで移動して、須波港から生口島の沢港へ「第二かんおん」で、と移動した。途中の今治造船広島工場（元の幸陽船渠）はゴライアスクレーンが立ち並び、大型コンテナ船が何隻も並んでいて、外から見ても、近くで見ても、とても力強い印象を受けた。ちなみに、この付近のほとんどの造船所が今治造船グループである。



忠海～盛（大三島）航路 「第三おおみしま」



今治造船広島工場



忠海～大久野島航路の高速艇 「ラピーナ」



忠海～大久野島航路の高速艇 「マリンラビットⅡ」



須波港の弓場汽船のフェリー「第八かんおん」（左）と「第二かんおん」

沢港では内海造船瀬戸田工場で建造中のフェリー「結 LINE こしき」と石崎汽船の高速艇「瑞光」を撮影した。また、建造中の海上自衛隊の艦船や大型巡視船もいて頼もしい。



内海造船瀬戸田工場で艤装中の甌島フェリー「結 LINE こしき」と整備中の石崎汽船の高速艇「瑞光」



三原～瀬戸田航路の高速艇 「サンロマンスⅡ」 沢港にて



尾道～瀬戸田航路の高速艇 「シトラス」 沢港にて

この後、瀬戸田港に立ち寄った後、島の東側の赤崎港から対岸の因島・金山港へ渡る「第三いんのしま」に乗船。すぐ傍に因島大橋がかかるものの、最短・最安をうたって健闘中のフェリーだ。しかも、普通のフェリーなら絶対許されないだろう狭く急な階段を登って3階の操舵室フロアまで上がっても良いとのことだったので、上がって、通常は見られない両頭船の操船状況を見させてもらうことができた。その後、少し歩いて因島モールから高速艇「かがやき1号」で生名島へ渡り、建造中の「さんふらわあ かむい」「さんふらわあ びりか」の撮影をして、すぐに同じ高速艇で三原まで航海した。船尾にオープン座席のある高速艇はありがたいし、気持ちが良い。



赤崎～金山航路のフェリー「第三いんのしま」 赤崎港にて



フェリー「香川丸」 赤崎港にて 香川は会社社長の姓



瀬戸田港に停泊中の旅客船 手前から「しまなみ」、
「しまなみ1」、「サンロマンスⅡ」、「かがやき5号」(右奥)



三原～因島航路の高速艇「かがやき1号」
因島モール港にて



土生～魚島航路の旅客船「ニューおしま2」



因島～生名島航路のフェリー「ゆめしま」



内海造船因島工場で建造中のフェリー「さんふらわあ かむい」(陸側)と「さんふらわあ ぴりか」



細島～西浜航路のフェリー「こまたき」重井西港にて



三原～瀬戸田航路の高速艇「シーホーク」三原港にて

そして、最後は、尾道港に立ち寄って、近場の渡船2隻に乗船して、今回は終わりとした。



尾道の渡船「にゅう しななみ」(左)と「第二歌戸丸」



尾道の福本渡船「第拾貳小浦丸」自動車航送可
この航路は来年2025年3月末での休止が決まっている

現在、本州と四国を直接結ぶ定期船は無いものの、今回、しまなみ海道の西側を中心に乗り継いで渡れる航路や、またそれ以外の航路も結構あることも認識できた。ただ、今治栈橋にはかつての可動橋が7つもあって、そのうち2つくらいしか使われて無いことや、あちらこちらで使われてないフェリーの可動橋を見ることもあったし、あちらこちらで、今は無い航路案内がずらりと並んだ切符売り場の掲示など、寂しいものも結構あった。

あと、この付近は、インバウンドを含め多くのサイクリストで大変賑わっていて、所々には、橋だけでなく、フェリーを使うルート案内もいくつか見られたが、今回乗船した範囲では、そうした客はほとんど見られなかった。船ファンとしては、そうした点をもっともっとアピールして欲しいし、コース案内には運航時間帯や頻度等も入れたらいいのではないかなと思った。

ちなみに、来年3月末で廃止になる航路が2つも見られたのは残念だった。

- 竹原～大崎上島～大崎下島航路 しまなみ海運 高速艇「かがやき2号」
- 尾道駅前・福本渡船 福本フェリー 渡船（自動車航送有）



三原港脇にある旧関釜連絡船「興安丸」の錨(左奥)と
今治造船寄贈のプロペラ・モニュメント